



# CANOA だより

# 52

2013年8月発行

文・写真\_鈴木真由美 編集\_橋口博幸 発行\_ブラジル事務局  
Praia do Estevao s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP: 62800-000

原稿を書いている現在、ブラジルでは三大祭りの一つである、「Festa Junina」が開催されています。このお祭りは、「六月のお祭り」と言われ、特にブラジル東北部で盛んに行われているものです。もともと、農作物の豊作や豊穰を願ったものであっただけに、今でもこの地域で賑やかに開催されているのでしょう。

私たちの保育園・学童教室でも、前期終了をこのお祭りで締めくくります。ブラジルの伝統文化を多く取り入れたこのお祭り、行事は、私にとっても一番好きな時期でもあります。日本の夏祭りのようにたくさんさんの遊びと食べ物を用意され、子ども達の歌と踊りが披露されました。中でも学童教室の子ども達は初めて、「Danca de Fita (リボンの踊り)」を披露し、村の人々の目を楽しませてくれました。こうした伝統文化を現在に伝えていくことも、私たちの活動にとって重要であると考えています。失われたものを取り戻すことは困難を伴います。だからこそ、失われる前に、それを伝承していく。その意義を強く感じている今日この頃です。

日本滞在中は本当にお世話になりました。数年ぶりに五ヶ月間という長い期間を日本に過ごすこととなり、慌ただしいながらも充実した多くの学びの時間となったと思っています。こうした長い期間現地を離れたことは、ある意味大きな賭けでもありました。「私がいなくても、活動はきちんと継続していくことができるのか？」それは、ここ数年で大きく成長した現地の教職員をはじめとしたスタッフへの大きな信頼があつてこそそのものでした。そして無事、私がいなくても活動を継続していくだけの大きな力と組織力を見せてくれました。本当に嬉しかったです。ただ、経費関連については、日本にいなながらも随時、確認しなければなりませんでしたが……。

そして今年度末、私は日本に再び一時帰国することになります。報告会など、皆様とお会いできる機会があると思いますので、ひとりでも多くの方とお会いでき、そして、皆様との出会いの中から、また学ばせていただければと考えています。

皆様とお会いできることを、今から楽しみにしております。



## 日本の子どもたちと一つの壁画を制作

JICA 日系社会青年ボランティア（青少年活動） 真野由紀

昨年より日本のパートナー校、愛知県の旭北小学校六年生と行ったアートマイル壁画交流プロジェクト。四メートルの壁画を、お互いの「文化」をテーマに日本とブラジルで半分ずつ制作しました。中央に地球を描いて二つの国の絵を繋ぎ、日本の子どもたちが地域のお祭りなどを描いたのに対し（日本の絵は目が大きくて漫画みたいと言いながら…）、私たちはカポエイラ、カーニバル、サッカー、料理、風景などを描きました。最後のスカイプ交流では、日本の子どもたちと一緒に「世界に一つだけの花」を日本のピアノ伴奏に合わせて、同時に歌いました。日本に感謝のメッセージを伝えたルーカス（十三歳）は、「お互いの文化を知ることができ、壁画制作も面白かった。また日本の皆さんと異文化交流がしたい。」とコメントしました。この経験が、いつまでも子どもたちの心に残ればいいなと思います。



## 音楽バンド Music for Canoa が熱い

JICA 日系社会青年ボランティア（青少年活動） 真野由紀

昨年、カノアのレゲエバンドと組んでスカを演奏して以降、メンバーも増え、みんなが毎週の授業に真剣に取り組むようになりました。そして今年、カノアで立ち上がった子どものバンドグループとも一緒に練習し、エステーヴァン村の子どもたちは週に四回の練習をこなす日々です。そして、熱血指導をするアトウとエドアルドに引け張られ、文句を言ったり授業中にふざけたりする生徒が減りました。九歳のフアンはトランペットを始めてから、それまで交流が少なかった友達ともたくさん話すようになり、やめていたサッカーも再開して、以前よりも活発になりました。これからのバンドの成長に期待し、少しでも多くの子どもたちに楽器に触れて演奏する楽しさを知ってもらいたいと願っています。



帰国前の六月三日、サンパウロにてJICAボランティアの帰国報国会があり、二年間を七分という短い時間でまとめて、活動報告をしなければなりませんでした。

自分なりにまとめた活動結果の原稿は作っていたものの、直前までその内容で良いのか悩んでいました。活動はいろいろしたけれど、私が人前で伝えるべきことは、そんなことなのだろうか。私を含め、今回ブラジルから帰国するJICAボランティアは二十三人。その中でも、私は他のボランティアとは全く違う別の世界で、全く別の生活を送りました。そして報国会前日、考え続けた結果、私はエステーヴァン村で一番学んだこと、人の幸せや豊かさについて発表することにしました。

私が二年間行ってきた活動は、村の中に溶け込むことが全てでした。村の中に溶け込み、人々の生活を知ると、素朴な生き方の中に人々の幸せや豊かさを感じるようになりました。それは、毎日家族が笑って過ごす時間があったからです。人間にとって、それが究極の幸せではないでしょうか。

そして、豊かさとは何か。家は大きくなくても、自分の手で家を作れること。外食するお金はなくても、自分の手で他人と分けられるくらいたくさんの魚やフルーツが取れること。洗濯機が無くて、時間に追われていないこと。子どもをたくさん産んでも、家族に子育てを手伝ってくれる人がいること。字の読み書きができなくても、人を楽しませることができること。物に頼らず、お金や時間に振り回されない。素朴な生き方の中にあるこれらが、人間にとってかけがえのない豊かさではないでしょうか。だから、カノアケブラーダを愛してやまない人が多いのだと思います。

果たして私たち日本人は、幸せや豊かさを感じられているでしょうか。他人と自分を比べて、恥を感じ、無いものに固執していませんか。カノアの人々から見たら、日本人が抱える悩みや問題は小さく些細なものに見えるかもしれません。私がカノアケブラーダに来て全く新しい価値観や文化に出会ったのは、その経験を人に伝えるためだったのかもしれませんが。

しかし、長く生活をすると、生徒と喧嘩するほどぶつかることもありました。ブラジルの教育環境に苛立ちも感じました。悲しいドラッグの問題に心を痛めることもありました。それでも、毎日子どもたちと触れ合い、心通わせ、信頼され、必要とされることで、子どもたちに心救われる日々でした。そんな子どもたちの成長をこれから見られないことが、一番悔やまれます。

四月に、マルシアノ先生の高学年クラスで、一年間準備し温めてきた星座の授業を行いました。星座早見表を作り、星座にまつわる神話を話して、子どもたちにいるいろんな星座を知ってもらいました。その後、生徒たちはさそり座やおおくま座など大きな星座が大好きになり、すぐに見つけられるようになりました。崖側からみても、砂丘側から見ても素晴らしい、ここカノアケブラーダの夜空の絶景に、日本人なら誰もが感動すると思います。今後の訪問者のために星座早見表を置いていきますので、ぜひ次の訪問に子どもたちと星を探してみてください。

二年間、学校の仕事や教育に関して、たくさん学ばせて頂きました。辛抱強くお付き合いくださった先生方、真由美さん、日本で活動を支えてくださった皆さんに深く感謝します。本当にありがとうございました。

# 日系メロン農園へバスツアーしました

JICA 日系社会青年ボランティア 真野由紀

カノアケブラーダからバスで約二時間のところに、モッソロー市があります。そこには日系人十家族ほどが住んでおり、その多くはメロン農園を営んでいます。日系人の農園主たちはグループ経営を行い、近年ヨーロッパ方面へ高級メロンの輸出を盛んに行っています。三年前前、Crianças de Luz の子どもたちは遠足でこのメロン農園を訪問し、とても楽しかったと今でも子どもたちは思い出し口々に言っていました。そこで、年末年始に行った焼きそば販売の利益で、再度バスツアーをすることにしました。

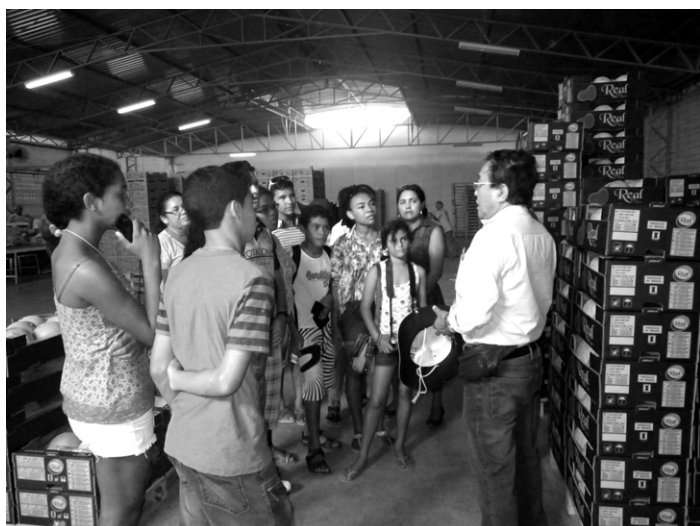
メロン農園に行きたいと志願した八人の生徒たちは、焼きそばの買出しから、野菜切り、販売まで十日間、よく手伝ってくれました。日本のアルバイト方式で、朝勤、昼勤、夜勤、自分たちのできる時間帯に交代で行い、毎日みんなで前日の販売数と利益を確認しました。販売は夜七時から観光地のメインストリートであるブロードウェイで行いました。最終日には、販売開始後、すぐに長蛇の列ができるほど、地元の常連客が付き、あつと言う間に目標額を達成しました。なんとと言っても、子どもたちが同じ目標を持ってみんなで手伝ったというのが全員の満足に繋がりました。

そして、メロン農園主である大谷社長に、バスツアーのために子どもたちが毎日焼きそばを販売していると話すと、大谷社長はとても感動し、本来なら未成年は農園に入ることができないところを、異例の配慮で認めてくださいました。また、遊びではなく、むしろ社会見学として、日系移民のことや、農園経営のことを子どもたちに学んでもらいたいと考え、大谷社長にお話を伺う時間を多く取って頂くことにし、一月十六日にバスツアーを実施しました。

大谷正敏社長は小学校五年生でブラジルに移住し、サンパウロから何も無い状態で東北部モッソロー市に移り住みました。その後、銀行にお金を借り、土地を買い、メロン経営を軌道に乗せる

までの長い苦労の道があり、現在、最大で一五〇人の従業員を抱える会社にまで発展したという、お話をさせて頂きました。そして、メロンの冷蔵庫やメロンが出荷されるまでのプロセスを見学しました。教師七人と生徒八人で、学びの多い一日を過ごしました。

後日、子どもたちは感想文を書き、大谷社長にお礼のプレゼントとして送付しました。イザベル（十二歳）は、「大谷さんは、強い気持ちを持って続けたので夢が叶ったと言いました。私も夢を持ってそれに向かって頑張りたいと思いました。」と書きました。また、アドリアン（十二歳）は、「ピタヤという果物を初めて食べました。甘くてとても美味しかったです。」と書きました。教師と生徒の中に新しい発見と学びがあり、とても良いバスツアーとなりました。



農園見学の様子



焼きそば販売の様子

## 味の素支援によるプロジェクト

味の素「食と健康」国際協力支援プログラムより、『地域特有の食材及び料理の再評価による、地域住民の栄養改善プログラム』として、二〇一二年四月一日より事業を実施しています。

二年目となり、生物学者の方地域住民が協力し合い、ようやく地域の森に存在し、住民たちが日常的に食しているすべての食材の正式名称が判明しました。フォルタレーザ大学の教授が一部の栄養素及び栄養価を既に調査し終え、随時収穫している森の食材の測定を順次実施していく予定です。今後、地域住民と共にフォルタレーザ大学を訪問し、ラボと栄養素及び栄養価の特定の見学を行う予定です。また、地域住民とともに、バランスのとれた食事となるよう、これら食材を活かしたメニュー作りも始まります。

予定通りに進まないことが多々あり、今回は事業実施に関してまだまだ安心できるところまで行っていないというのが正直な気持ちではありますが、地域住民の積極的な参加を見てみると、最後にはこうした日々を思い出して笑えるほど、上手くいくのではないかと感じてしまいます。最後まで気を抜かず、努めていきます。



母の日



海で授業



海で Pirao 料理

## JICA 草の根技術協力事業プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業より、『ブラジル東北部子育て支援体制強化による地域力向上プロジェクト』として二〇一三年三月一日より実施しています。主な事業内容として、①子育て支援システムの構築（子育て広場の開設）、②十二〜十五歳を対象としたライフスキルトレーニングの実施、③各専門機関と地域住民によるコミュニティネットワークの設置、以上三つの活動を二年半のあいだに実施していく予定です。

二〇一三年五月六日には、JICA ブラジルより、現地の活動状況把握のための訪問と、協力団体を含めた会合が行われました。多くの協力団体が参加している中、専門的な技術等ではフォルタレーザ大学が、そして、継続した活動となっていくようにしていくためには、今まで以上に市政府との連携を強くしていく必要があることが確認されました。

今年度より新市長となり、全ての市政府執行機関の代表が入れ替わった中、計画していた通りの活動が出来るのかという不安もありましたが、市政府の中でも特に教育局と社会福祉局は今回の事業実施に対して強い期待を抱いており、事業開始は思っていた以上に素晴らしいものとなりました。今後、具体的な活動が実施されていく中、積極的に関わってくれている住民を中心とし、活動に従事していきたいと考えています。

これからも皆様の応援、ご協力の程、よろしくお願い致します。

## 子育て日記より

長女は今年で小学校三年生。心も体も成長している。そんなふうを感じる事が多くなりました。特に、感情の起伏が激しく、些細なことでも泣き出します。三歳違いの妹への嫉妬は、今までに無い程強くなってきているような気がします。それでも持ち前の朗らかさで、学校でも、家でも、体をよく動かし、大好きな仕事をしながら毎日を楽しそうに過ごしています。

「九歳は人生の中で大きな変化のある年齢の一つ」と聞いたことがありましたが、本当なんですね。本で読み、勉強し、学ぶ中で得られた知識も、こうして目の前で現実的に起こっていることを目の当たりにした時、心から納得できるような感じがします。ということ、自分自身、迷いがあった、信じていなかった……という事なのかもしれない。

子育てというのは、自分自身を見つめる、そんな機会でもあるのかもしれません。

# 光の子どもたちの会会計報告及び予算

単位：円

科目	24 年度予算	24 年度決算	25 年度予算
<b>収入の部</b>			
前期繰越金	539.418	539.418	327.273
物品販売	100.000	36.845	50.000
会費収入	250.000	168.180	250.000
寄付収入	2.500.000	2.171.293	2.500.000
学資支援費	180.000	0	180.000
音楽企画支援費	300.000	22.015	300.000
サッカー - 企画支援費	10.000	0	10.000
その他事業費（イベント等）	100.000	50.000	100.000
かながわ民際協力基金	747.000	0	536.000
JICA 基金	478.500	267.816	0
味の素助成金	0	1.473.000	1.944.000
受取利子	10	6	10
収入合計	5.204.928	4.728.573	6.197.283
<b>支出部</b>			
事務局運営費（B）	60.000	77.558	60.000
事務局運営費（日）	10.000	4.645	10.000
保育園企画食材費	60.000	1.360	60.000
保育園企画教材費	30.000	0	30.000
保育園企画職員費	1.236.000	1.036.825	1.770.000
保育園企画学資支援	180.000	147.936	180.000
音楽企画運営費	250.000	235.912	300.000
サッカー企画運営	5.000	0	5.000
かながわ民際協力基金事業費	2.517.944	1.203.032	0
JICA 基金	735.830	525.146	0
味の素助成金	0	1.168.886	2.392.114
支出合計	5.129.774	4.401.300	4.807.114
次期繰越金		327.273	

（注） ・平成 24 年 1 月 1 日より平成 24 年 12 月 31 日までの決算報告となります。

・平成 24 年度予算案は R\$1.00=50 円、平成 25 年度予算案は R\$1.00=50 円で計算しています。

## 光の子どもたちの会会計報告収入の部内訳

単位：円

科目	日本事務局 (24年度)	ブラジル事務局 (24年度)
<b>収入の部</b>		
前期繰越金	40.332	499.086
物品販売	0	36.845
会費収入	155.000	13.180
寄付収入	56.275	2.115.018
学資支援費	0	0
音楽企画支援費	0	22.015
サッカー - 企画支援費	0	0
その他事業費 (イベント等)	50.000	0
かながわ民際協力基金	0	0
JICA 基金	267.816	0
味の素助成金	1.473.000	0
受取利子	6	0
収入合計	2.042.429	2.686.144

## イベントの開催

「光の子どもたちの会」は、2013年10月19日(土)、20日(日)に開催予定の、「よこはま国際フェスタ2013」に参加を予定しています。そこで、このフェスタまでに、7～9月の3ヶ月間、毎月1回“貝殻アクセ作りイベント”を開催致します。このイベントを通して、フェスタで販売するためのアクセサリを製作すると共に、多くの皆さんにフェスタのことを知ってもらう機会となればと考えています。

### 第1回

日時：7月28日(日) 10～12時

場所：神奈川県民センター 9F フリースペース

イベント内容：貝殻アクセ&グッズ作り

- \*第1回は終了いたしました。ご参加くださった皆さま有り難うございます。
- \*第2・3回の開催詳細に関しては決定次第告知いたします。
- \*参加希望の方は坂井春菜 (flor-de-primavera@docomo.ne.jp) までご連絡ください。

## ありがとうございます!!!

平成 24 年 10 月 26 日～平成 25 年 6 月 14 日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていっていただけると嬉しいです。目標会員 100 名!!!

\*会費及び寄付を頂きました皆様 (以下順不同)

大谷タカコ さま / 大庭富美香 さま / 大間弘道 さま / 岡本ゆり子 さま / 小川千鶴子 さま / 川原翼 さま / 桑山寛子 さま / 坂井春菜 さま / 諏訪田敦子 さま / 高橋美智 さま / 谷村祥子 さま / 浜田順子 さま / 藤本くみ さま / 藤本夏実 さま / 堀池眞輔 さま / 堀池ミツ子 さま / 松丸綾乃 さま / 宮地陽子 さま / 宮田文子 さま / 吉川真弓 さま

\*物資支援を頂きました皆様 (以下順不同)

Maresia さま / 横浜市立栗田谷中学校 さま

## 「学資支援」のお願い

ブラジルでは「子どもと直接かかわる職業の人はすべて、大学の教育学部に通学もしくは卒業していること」ということで、私たちの現地スタッフの内 2 名 (フラビアーニとパトリシニア) は現在大学に通学しています。私立のため一人当たり: 授業料 (月謝) + 交通費 + 教材費 = 約 18,000 円 (R\$300.00) が掛かることとなり、その半分を支援していこうというプロジェクトです。

現在、毎月約 18000 円 (二人分) を学資支援しています。支援方法は、会員の支払い方法と同じです。但し、コメント欄に『学資支援』と書いていただけますよう、お願いいたします。

## 「共育ち・ひなた」にて、カノアの物品を販売

「共育ち・ひなた」は“子どもの育ちに寄り添うことを通して、私たち一親・支援者・私個人一として、もう一つの人生を味わうことができます。ここに集う人がつながり、共に育ち合う場をご一緒に創りたいと願っています。”というミッションを掲げ、横浜市内で活動しています。その活動に共感し交流を続けているのですが、今後とも共に学び合っていけたらと思っています。

「共育ち・ひなた」

連絡先・お問合せ 宮地 陽子

横浜市神奈川区鳥越 11-17

Tel/Fax: 045-423-6898 (19 時以降)

e-mail: tomosodachi.hinata@gmail.com

## 会費及び寄付の振り込み方法の改善について

現在、インターネットによる会費及び寄付の振込の可能性を検討しているところですが、今のところ、①郵便振替、②銀行振込、そして新たに③自動引落による振込の3つの方法によって、会費及び寄付を受け付けています。まだまだ至らない点もあるとは思いますが、今後とも皆様からのご意見を生かしながら運営していきたいと考えておりますので、ご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。

### ■自動引き落としによる振り込み方法

1. 自動引き落とし希望の口座のある金融機関に行き、自動引き落としの手続きをする。(この際、ご希望の引き落とし日、金額を指定していただけます)
2. ご希望の引き落とし日よりご指定の金額が『光の子どもたちの会』に振り込まれます。

\*尚、ゆうちょ銀行の場合は下記の<郵便振替>と同じ口座番号ですが、他金融機関からの振り込みの場合には、<ゆうちょ銀行振込>と同じ口座番号となりますので、ご確認ください。

### ■郵便振替

口座番号: 00280-1-41787

加入者名: 光の子どもたち-カノアの活動を支える会

### ■ゆうちょ銀行振込

名義: 光の子どもたちの会

店名: O二八 (読みゼロ二八チ)

店番: 928

普通預金

口座番号: 5552594

## ボランティアの皆さん、どうもありがとうございました!! (以下 2013 年 1 月より現在まで)

2011/7/26 ~ 2013/6/31 真野 由紀

JICA 日系青年ボランティア、学童教室助手、日本文化教室実施他

2013/2/26 ~ 3/28 佐藤 浩

情操教育全般。創作活動や体を使ったアクティビティ

2013/2/26 ~ 3/28 永田 名奈子

日本語や英語の歌唱指導やリズム遊び